

ギリシャでウエストナイル熱が発生

2010年8月10日 ProMED 情報(In Gr)



ギリシャのマケドニア Macedonia 地域で、脳炎患者 16 名がウエストナイルウイルスによることが確認されました。ウエストナイルウイルスはテッサロニキ Thessaloniki 市で死亡した 3 名の高齢者のうち 2 名(女性と 79 歳の男性)を含む複数の患者検体から検出されました。死亡した 3 名中他の 1 名の検体は検査されていません。

8月9日、テッサロニキのアリストテレス大学の研究者によると、これらの患者については血清学所見と臨床診断が一致するとのことでした。

テッサロニキの病院によれば、12名の患者が脳炎症状を示しており、そのうち1名が重体であるとのことでした。死亡した3名のうち1名(79歳)は基礎疾患(心臓病と糖尿病)がありました。昨年との比較として、最近の40日間にマケドニア中央部で脳炎とウイルス性髄膜炎発生が増加したことから、調査を行なったところ、ウエストナイルウイルスが発見されました。

8月9日イマティア Imathia 県で、蚊征圧会議が開催され、今年の蚊駆除剤の撒布地域を拡大することについて議論がなされました。

〔ProMED 8月11日:テッサロニキのアリストテレス大学の研究者からのコメント〕

検査は、患者の血清中 IgG・IgM 抗体及び脊髄液の IgM 抗体について実施されました。